

きら読

DAYORI

No.170 臨時号

きらり くらくら 読書だより



教育長・市立図書館館長より激励の言葉をいただきました。

第14期 子ども司書養成講座



7月16日(水)ピアラシティ交流センターにて第14期子ども司書養成講座開講式が行われました。今年度の受講生は25名。目をきらきら輝かせながら、これから始まる養成講座の目標や楽しみにしていることを一人ひとり発表しました。



先輩子ども司書やR&Lが司会・先輩子ども司書からのメッセージ・受付を担当しました。



夏休み集中講座の様子

司書の仕事、読み聞かせ・レファレンスのしかた、POP作成、児童センターでの読み聞かせ実習など、様々な講座を行いました。先輩子ども司書も講座に参加し、たくさんのアドバイスをしてくれました。



©三郷市 2009



編集・発行：三郷市教育委員会生涯学習部
日本一の読書のまち推進課 ☎ 048(930)7818
〒341-8501 三郷市花和田648番地1 FAX048(953)1160

あなたは、「死」について考えたことはありますか。なかなか日常では意識しないことだと思えます。ですが、だからこそ「死」について考えるのは大切なことなのです。

「命には必ず終わりがある。」当たり前のような言葉だけれど、私は飼っていたペットが亡くなってしまったとき、この言葉の本当の意味を理解することができました。

このお話は、実際にある動物の病気や著者の生い立ち、獣医として働く中で体験したこと、獣医の目線から見た動物について書いてあるノンフィクションです。

その中で私が心に残ったのは、「命を飼うということ」の章で

『珍獣ドクターのドタバタ診察日記 動物の命に「まった」なし!』

田向健一/著 ポプラ社

す。私がペットを飼い始めたころ、「死」を意識せず生活してました。そもそも死を意識するのがこわく、目を背けてきました。まだ、ペットは元気だし、「私なら何年も何十年も生かしてあげられる」、そう過信してしまっていました。ですが、この本で、「命には必ず終わりがある」「死を意識して生活していけばあまり悲しむことがない」という言葉を読んで、私は、やっとな死を意識して生活していこうと思い、目を背けることをやめました。とてもシンプルで当たり前のことのようにだけれど、実際にペットを飼ってみるとなかなか難しいことです。私自身、頑張つて死と向き合おうとしたけど、いざ、ペットの死と直面した時には、やはり、なかなか

命に向き合う

気持ちの整理がつきませんでした。それでも、「命」に向き合つて生活することはとても大切だと思えました。ペットを飼いたいと思っている人もいない人も、「命」について考えるのは大切だと思います。そう考えたうえで生活すると、動物の見方が変わり、より命の尊さを感ずることができるようではないでしょうか。



三郷市子ども司書 14期生

岡田 紗英さん

「一歩進めれば、すごいことなんだー」私は、この言葉が心に響きました。それは、「たった一歩」ととらえるのではなく、「一歩進めたことはすごいことだ」と考えているからです。暗く考えずに、前を向いて歩こうという考えに、心が温まりました。

この本は、何に対しても「どっちでもいい」と答えてしまうはるちゃんという女の子が成長していく物語です。ある日、はるちゃんは、クラスメイトが自分のことを「いてもいなくてもどっちでもいい子」と言っているのを聞いてしまいます。そして、「変わりたい」と考えてヒップホップダンススクールに入ることを決意します。玲奈ちゃんや杏ちゃんと出会い、たまにトラブルになりながら

『どっちでもいい子』

かさいまり/作 おとないちあき/絵 岩崎書店

も、壁を突き破り一生けんめい一歩ずつ進むお話です。

私は、はるちゃんと杏ちゃんが仲直りする場面が心に響きました。二人はもとも仲が良かったわけではないけれど、はるちゃんが発表会のセンターになったことで仲が悪くなってしまった悲しかったです。私も、こういうことがあった時、悔しくて学校を休んでしまったことがあります。つらすぎた泣いてしまいます。杏ちゃんがはるちゃんとの約束を破った時に「一緒に行くのがいやになったから」と言っていて驚きました。最初は一緒に行こうと言っていたので、はるちゃんのことを信じてくれたとほっとしたからです。つらいといろいろな気持ちをごちゃ混ぜになつて、むっとしたりイライ

前を向いて歩き続ける

ラしたりして相手を傷つけてしまうことに心が痛くなりました。でも、二人で話してたがいに笑い合えた時は、感動してやさしい気持ちになりました。一歩進むということは、まさにこのことだと実感しました。

この本は、「一歩」にどんな大切さがあるか考えることができる本です。つらいことは、一歩進めるチャンスと考え、前を向いて歩き続けることは大変だけれど大切なことです。皆さんも、ぜひこの本を読んでみてください。



三郷市子ども司書 14期生

坂根 愛佳さん